

三宅島

概況（平成14年3月）

引き続き噴煙活動が活発です。

山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向にありますが依然として高い値を保持しています。

小規模な噴火が2日に2回、31日に1回発生しました。

山頂直下の地震活動は低い状態で、振幅の小さな火山性微動が発生していますが、火山活動に大きな変化はありません。また、三宅島の収縮を示す地殻変動は、長期的には鈍化傾向にあります。

以上のことから、火山活動は全体として低下傾向にありますが、今後も小規模な噴火は発生する可能性があります。

風下では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。

また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

火山ガス噴出活動の状況

4、13、19、25日に実施した二酸化硫黄の放出量の観測*では、日量約7,000～23,000トンと依然多量の火山ガスの放出が続いています。

*東京消防庁、警視庁、海上保安庁の協力による。

噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

2日 05時53分、06時12分に空振を伴う小規模な噴火が発生し、山頂から灰白色の噴煙が上がり、北西に流れるのを確認しましたが、高さは雲による視界不良のため不明でした。また、31日06時03分に空振を伴う小規模な噴火が発生し、山頂から灰色の噴煙が火口上800mまで上がり、北東に流れ、降灰を確認しました。

白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上1,200m（16日と28日）でした。

地震活動状況

山頂直下の地震活動は低い状態で推移しています。

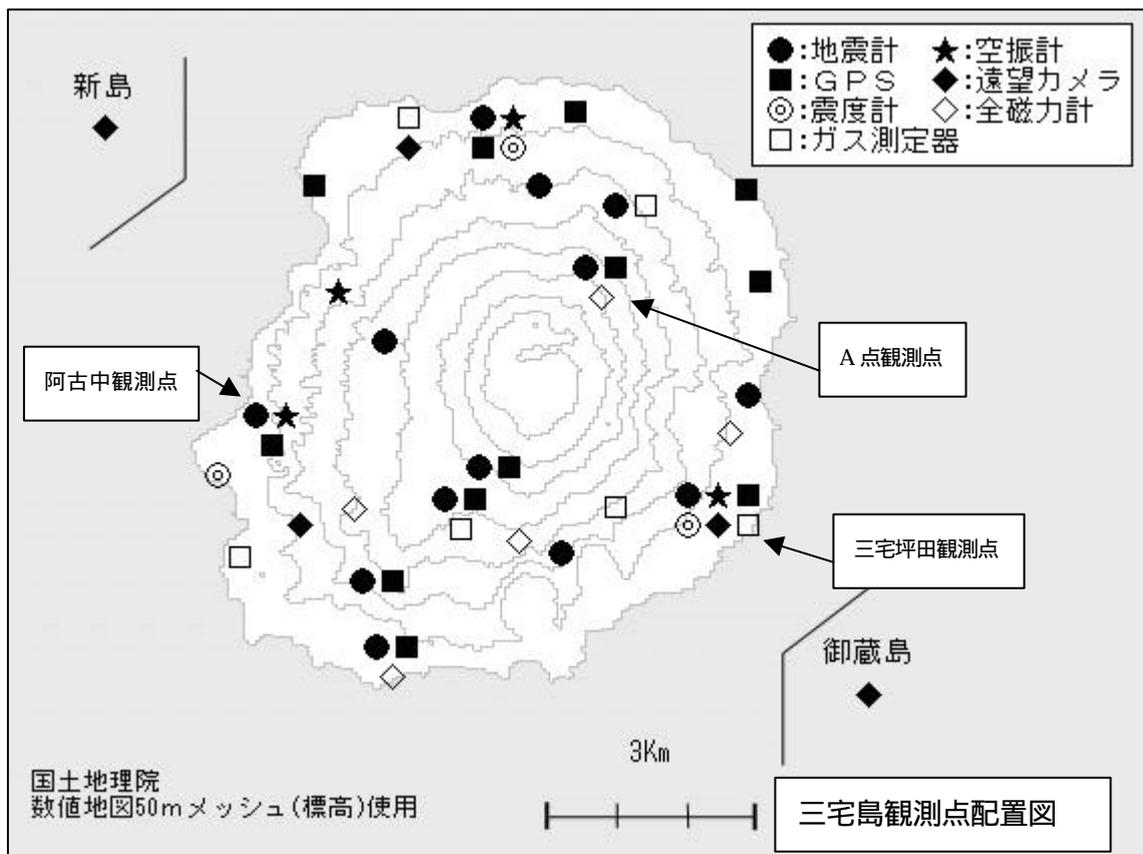
小規模な噴火が発生した2日は微動が増えましたが、その他の日は静穏な状態で推移しました。

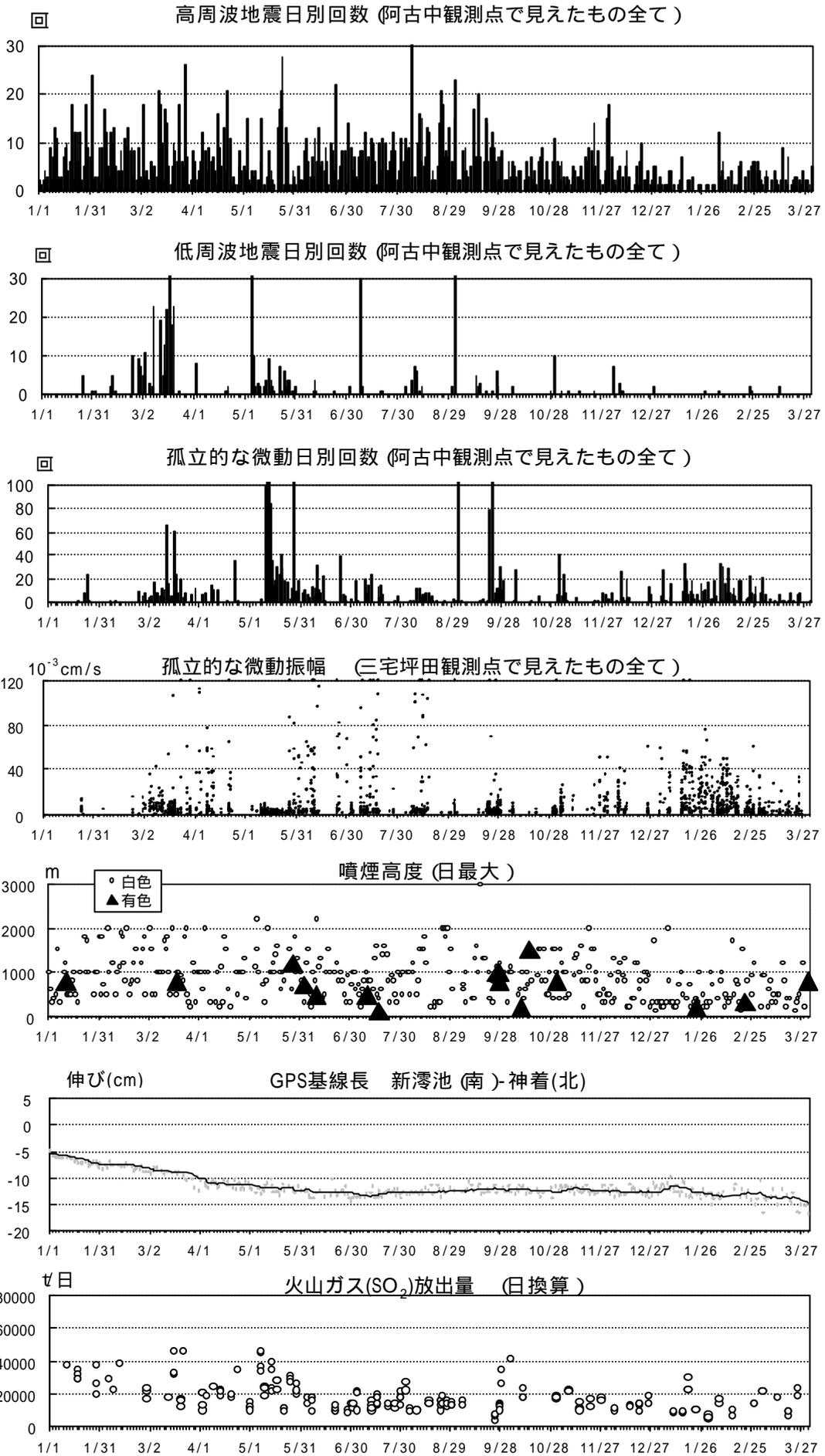
地殻変動の状況

GPSによる地殻変動観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、長期的には鈍化傾向にあります。

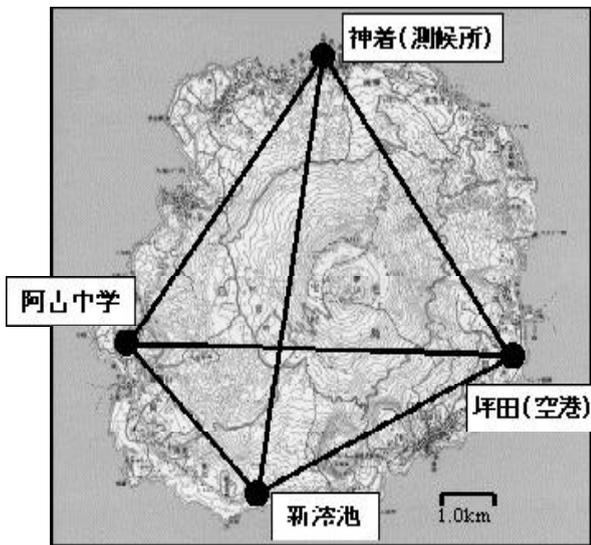
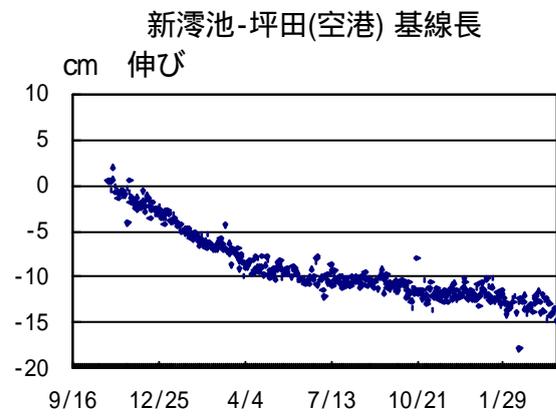
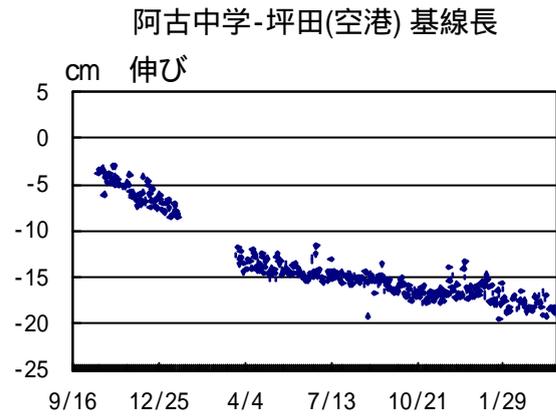
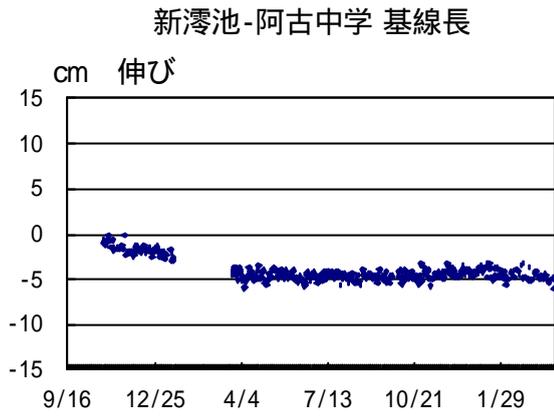
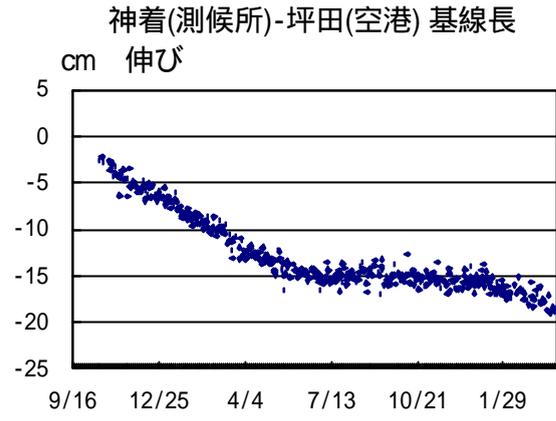
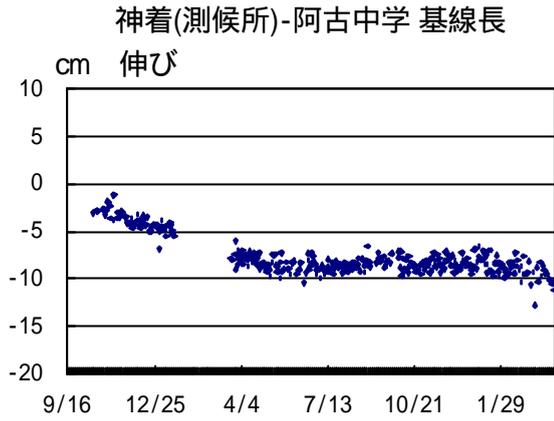
火山性地震・微動日別回数表（阿古中観測点）

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	2	1	3	4	3	0	2	0	4	2		21	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
微動	9	21	2	6	0	0	3	0	2	0		43	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	1	0	2	9	2	1	7	0	1	2		25	
低周波地震	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		2	
微動	0	0	7	2	1	0	0	2	9	0		21	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	3	3	2	2	1	4	2	2	0	1	5	25	71
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
微動	1	0	6	0	8	0	0	0	0	0	1	16	80

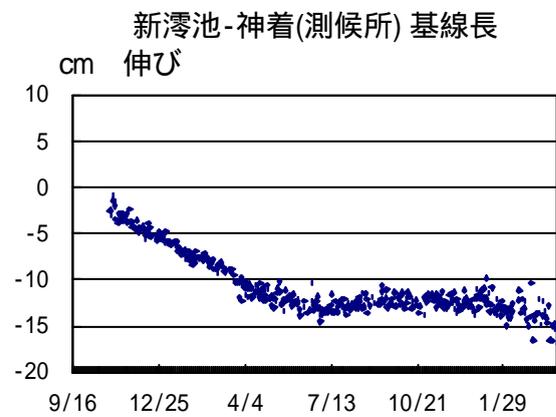




火山活動経過図 (2001年1月1日~2002年3月31日)



氣象庁GPS観測点配置図



G P S 観測結果（2001年9月16日～2002年3月31日）

